

- ナミックスの観測, 第3回 IS レーダーシンポジウム報告集, in press.
- Tatarskii, V.I., 1961: Wave Propagation in a Turbulent Medium, McGraw-Hill, New York, 285 pp.
- VanZandt, T.E., J.L. Green, K.S. Gage and W.L. Clark, 1978: Vertical profiles of refractive turbulence structure constant: Comparison of observations by the Sunset radar with a new theoretical model, Radio Sci., 13, 819-829.
- 若杉耕一郎, 深尾昌一郎, 1977: IS レーダーによる乱流観測とその系統誤差, 信学技報, AP-77, 13-16.
- Warnock, J.M., T.E. VanZandt, J.L. Green and R.H. Winkler, 1978: Comparison between wind profiles measured by Doppler radar and by rawinsonde balloons, Geophys. Res. Lett., 5, 109-112.
- Wilkins, E.M., 1963: Decay rates for turbulent energy throughout the atmosphere, J. Atmos. Sci., 20, 473-476.
- Woodman, R.F. and A. Guillen, 1974: Radar observations of winds and turbulence in the stratosphere and mesosphere, J. Atmos. Sci., 31, 493-505.

---



---

 会員の広場
 

---



---

## 世界気候小委員会の発足

山元 龍三郎\*

日本学術会議地球物理学研究連絡委員会は、1978年7月3日に、同委員会気象分科会からの提案により、同委員会内に世界気候小委員会を設けることを決議した。第1回の世界気候小委員会が1978年12月6日に開催され、正式に発足した。

世界気候小委員会の設立趣旨およびその使命は次の通りである。

世界気候およびその変動の研究の重要性は、人口、食糧問題、環境問題などと関連して、近年ますます強く認識されるようになってきた。ICSU は、1977年9月の General Committee で世界気候の研究の推進を決議しており、これに呼応して IAMAP も、1977年9月の Seattle 総会で気候に関する International Commission の設置を決定している。現在、WMO は、WHO, FAO, UNESCO, UNEP, IIASA などの各国連機関と共同して、世界気候計画 (WCP) の立案を進めており、その準備の一環として1979年2月に世界気候会議の開催を予定している。ICSU と WMO の協力研究計画である GARP 計画においても、かねてから、その第2期計画

として気候力学10年計画の立案を進めてきたが、この計画は上の WCP に中心的計画の一つとして組み込まれる趨勢にある。

このような状況の下において、わが国としても、地物研連内に世界気候小委員会を設け、気候変動に関する相互の研究連絡を密接にするほか、国際的動きに対応し、必要に応じて共同研究計画の立案などに当たる必要がある。気候変動には種々の時間的尺度の現象が認められるが、当面、主として、1月以上100年程度までの時間尺度の現象に重点をおいて委員会活動を行なう。

世界気候小委員会は、気象関係の他、海洋・陸水・地球電磁気・測地・火山・天文関係の研究者を含み、当面次の30名のメンバーで活動をすすめる。

- 朝倉 正, 有住直介, 内嶋善兵衛, 内田英治, 片山昭, 勝井義雄, 加藤 進, 上山 弘, 神山恵三, 川口市郎, 川口貞男, 岸保勘三郎, 小林寿太郎, 坂上 務, 沢田竜吉, 関口理郎, 関原 疆, 高野健三, 武田喬男, ○田中正之, 寺本俊彦, 鳥羽良明, 内藤 勲, 樋口敬二, 孫野長治, 増田善信, 三崎方郎, 守山史生, ◎山元龍三郎, 吉野正敏 (◎は委員長, ○は幹事)

\* R. Yamamoto, 京都大学理学部